

【令和 8 年度（2026 年度） 審判員の目標】

令和 8（2026）年 2 月 1 日
（公財）日本ハンドボール協会 競技・審判本部
指導普及本部

1 『審判員としての人間性』（笛は人格を現す）

・ 審判員の心得 10 箇条（別添資料①）

- | | |
|-------------------|------------|
| ① リーダーシップ | ⑥ 身体上の適正 |
| ② 誠実さ（リスペクト） | ⑦ ユーモアのセンス |
| ③ ルールに関する知識（競技規則） | ⑧ 勇気 |
| ④ 冷静さ | ⑨ 協調性 |
| ⑤ 正しい判断 | ⑩ 仲間意識 |

2 『ゲームマネジメント』（別添資料②、③）

（1）『ハンドボールのイメージを守る』

- ・ プロボケーション・オーバーリアクション・シミュレーション・・・競技規則 8：7、8：8 の適切な運用
- ・ ピボット(PV)ゾーンの攻防の管理は、コートレフェリー・ゴールレフェリーの協働作業
- ・ ユニフォームを掴むプレーに対し、早い段階から、適切な対応および判定

（2）『選手の安心・安全の確保』

- ・ 安心・安全のための「ゲームマネジメント」
- ・ 危険な行為に対する判定の基準・・・競技規則 8：3 の判断基準を踏まえた、8：4、8：5、8：6 の適切な運用
- ・ ウイングシュートに対する防御行為 ” Long Step” と “Foot on Foot”
- ・ 試合開始 15 分間で「カテゴリーに対応した適切な基準」を示し、その基準を「試合展開に関係なく」、「試合終了まで維持」する。

（3）『公平性・バランス』

- ・ 違反した側が有利になる判定は、決してあってはならない。
- ・ 試合終盤（僅差の場合や、残り 10 分を切ってからは全ての試合において）の集中力を高め、維持する。この時間帯にミスが決してあってはならない覚悟で試合を運営する。
- ・ バランス（判定のバランス、両レフェリーのバランス、両チームへの運用のバランス、特に近い時間帯）を常に意識し、試合を運営する。